

2024-25
第 21 回例会
2025.1.6

国際ロータリー第 2530 地区 県北第一分区

福島南ロータリークラブ会報

会員 76 名中 42 名出席 55.26% 修正 54 名 71.05 %メイクアップ 12 名

例会会場/ウエディング・エルティ TEL 024-535-6188 毎週水曜日 12:30~



◆会長あいさつ 赤間浩一会長

ご参会の皆様、新年明けましておめでとう御座います。

本日はご多用中にも関わらず、ご来賓様はじめ多くの皆様にご出席賜りまして誠に有難うございます。

私は本日ホストを務めさせていただきます 福島南ロータリークラブ第 54 代会長の赤間 浩一と申します。クラブ会員一同 皆様には楽しんで頂きたいと思っておりますので、何卒よろしくお願ひいたします。

さて、2024 年を振り返りますと、能登の震災から始まり、各地での豪雨被害。

記録的な円安や止まらない物価上昇、そして米不足などがありました。

私の会社は製造業なのですが、市内におきましてもパナソニックさんの工場閉鎖の発表をはじめ、各大手の企業で大規模なリストラが実施されております。

年のせいなのか、悪いニュースばかりが目につくようになっておりますが、全国的に見ても良い出来事と言えば大谷翔平選手のニュースくらいではないでしょうか。

このような世の中となっておりますが、今年 2025 年を皆さんが良い年とするために、一度ロータリーの基本を振り返ってみては如何でしょうか？

これほどの大先輩たちを目の前にして釈迦に説法とは存じますが、ロータリークラブには目的がありますよね。

『意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。』

これを実践するために皆さんは集っていると言う事になります。

さらに奨励されている第 1 に『知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること』とありますが 皆さん、今日がチャンスですよ。

ここにいる皆さんは同じ方向を向いている仲間ですから、知らない人がいてもすぐに知り合いになれちゃうと思いますし、酒が入れば尚更です。

今年の干支 蛇は、脱皮をしながら成長する生き物であるため、新しい挑戦や変化を受け入れるのに適した年と考えられています。経済的にも新しい機会や成長が期待される年とされています。

新しい知り合いが出来れば、新しい情報や考え方など 自分自身に刺激を与える事ができ、ロータリーの目的である自身の事業を育むことが出来るのではないのでしょうか？

是非、なかなか無いこのような機会に他クラブとの交流など、知り合いを広めて頂き、ご自身の事業の新しい挑戦や成長へと繋げ、さらにここ福島の発展にまで寄与して、皆様にとっても世の中にとっても幸せな一年としていきましょう。

結びに、本日もご参会の皆様と各ロータリークラブの益々の発展とご健勝をご祈念致しまして、ホストクラブ会長の挨拶とさせていただきます。ありがとう御座いました。



◆来賓あいさつ 福島県知事 内堀雅雄知事



謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年は、パリ2024オリンピック・パラリンピックでの本県関係選手の活躍など、スポーツに関する明るい話題が続いたほか、2026年春のふくしまデスティネーションキャンペーンの開催決定など、今後の復興と地方創生を後押しする動きも数多く見られました。

また、震災と原発事故から間もなく14年が経過する中、避難地域では、4つの町に認定された全ての特定帰還居住区域において除染・解体作業が進められているほか、県産農産物の輸出量が過去最高を記録し、県内への移住者数も過去最多を更新するなど、これまで続けてきた挑戦の成果が目に見える形となって現れてきています。

一方で、廃炉と汚染水・処理水対策を始めとした原子力災害に伴う様々な課題に加え、急激に進む人口減少など、依然として困難な課題が山積しており、長い戦いとなる本県の復興と「福島ならではの」地方創生を成し遂げるためには、今後も挑戦を続けていかなければなりません。

まず、震災と原発事故からの復興・再生につきましては、令和7年度が最終年度となる第2期復興・創生期間後のステージを見据えながら、復興の進捗に伴って生じる新たな課題やニーズに的確に対応していくとともに、被災者の生活再建や事業・生業の再生、帰還に向けた環境整備などの課題に着実に取り組んでまいります。

また、人口減少対策につきましては、急激な人口減少のスピードをいかに緩やかにしていくかが重要となっていることから、様々な主体と危機感を共有しながら、出会い・結婚から妊娠・出産、子育てのライフステージに応じた切れ目のない支援などの「自然減対策」と、県内で働く魅力を発信し、若者の県内定着・還流を図る取組や移住・定住の促進などの「社会減対策」の両面から粘り強く取り組んでまいります。

今年4月からは、プレDCがスタートします。来年の本番に向けた機運醸成を図りながら、多くの皆様に、本県の様々な魅力と復興に向けて力強く歩み続ける福島の今を「見て」「食べて」「感じて」いただけるよう、準備を進めてまいります。

今後も、県民の皆様と共に、挑戦を続けてまいりますので、一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。新年の御挨拶といたします。

◆来賓あいさつ 福島市長 木幡浩市長



明けましておめでとうございます。

市内ロータリークラブの皆様には長年にわたり、崇高な理念と社会奉仕の精神の基に、社会貢献活動を続けておられますことに対し、心から感謝と敬意を表します。

能登半島地震で始まった昨年は、国内外で災害や紛争が絶えず、物価高騰は日々の生活や事業活動を圧迫し、コロナ禍を経て人口減少は深刻化するなど、何かと空気の重い一年でした。

一方で、賃上げの久々の広がりやデフレに慣れてしまった心に上向きの変化をもたらした、遠藤裕美選手や室屋義秀選手、若元春・若隆景、福島ユナイテッドなど、本市スポーツ関係者のめざましい活躍は明るい希望を与えてくれました。市政においても、観光客や移住者、新規就農者の数やふるさと納税額が過去最高を更新し、公立夜間中学「天神スクール」の開校、パートナーシップ制度の導入など、これまでの殻を破る新たな動きが続いています。

ロータリアンの皆様には地域社会のリーダーとして各分野で活動に取り組み、市が進める市民

共創のまちづくりをけん引する原動力となっております。また、本年3月には、市民活動の新たな拠点となる市民センターが整備されます。市民センター開設をきっかけに、新たな共創を生み出す扉が開き、市民の皆様と行政がこれまで以上に連携が図られるものと考えております。

今後も「共創のまちづくり」の意識を高める取り組みや、まちづくりに関わったことがない人も気軽に参加できるような仕組みを検討し、「共創のまちづくり」を推進してまいりますので、引き続き、一層のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

本年が皆様にとって健康で幸多き年となりますよう心からご祈念申し上げます。

